

# 施策評価調書

施策名	1-3-1	デマンド交通を核とした魅力ある交通体系の確立		施策を取り巻く環境変化	民間赤字路線の維持から、デマンド交通システムへ移行し、高齢者等いわゆる交通弱者といわれる方々が利用者しやすく、親しみやすい交通システムを構築しました。デマンド交通を核として、JR宇都宮線及び烏山線との連動をして、より利便性を高めていく必要があります。 民間路線バス2線(杉山線・氏家駅普通川線)廃止
		地域経営計画(後期計画) 該当ページ	P. 23		
担当部課	総務企画部 地域安全課	担当	危機管理担当		
		リーダー	戸井田 和明		

## 1. 住民意識調査結果

21年度(10月実施)		25年度(※実施予定)		26年度(※実施予定)	
満足度	第19位/全36項目(魅力ある交通体系の確立) 1.6%	満足度	第 位/全 施策	満足度	第 位/全 施策
優先度	第36位/全36項目(魅力ある交通体系の確立) -4.5%	優先度	第 位/全 施策	優先度	第 位/全 施策

満足度:「満足である」、「どちらかと言えば満足である」を合計した割合から、「どちらかと言えば不満である」、「不満である」を合計した割合を差し引いたもの  
優先度:「優先すべき」、「やや優先すべき」を合計した割合から、「あまり優先しなくてよい」、「優先しなくてよい」を合計した割合を差し引いたもの

## 2. 施策の目標

指標	基準値	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
指標1:デマンド交通「たんたん号」年間利用者数(H27年度@144人×365日): (人)	22年度実績 45,205人	計画	46,700(37,600)人	48,200(38,700)人	49,600(39,800)人	51,100(40,900)人	52,600(42,000)人
指標2:		計画					
		実績					
指標3:		計画					
		実績					
指標4:		計画					
		実績					
指標5:		計画					
		実績					
指標に関する特記事項	たんたん号の利用者数 H23 @128人×365日≒46,700人 H24 @132人×365日≒48,200人 H25 @136人×365日≒49,600人 H26 @140人×365日≒51,100人 H27 @144人×365日≒52,600人 平成22年度の実績を踏まえて計画を修正しております。( )内の数字は修正前の数字です。						

進捗状況の区分 ↑:目標以上の成果があった →:目標どおりの成果があった ↓:目標に至らなかった △:遅延・未着手等 ×:見直し・廃止等

## 3. 施策に係る経費

事業費(傘下事務事業費計)の推移【単位:千円】 (※総事業費)	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		当初	24,145			
	決算					

## 4. 施策傘下事務事業 ※別紙のとおり

## 5. 施策評価

後期計画における施策展開のビジョン		H24年度の狙い
自己評価(部)	H22事後評価	高齢者のみならず多くの方に利用していただけるように、利用促進を図る。また、高齢者の交通事故防止のために自動車運転免許返納の返納事業を推進していく。近隣市町との連携を密にして、デマンドバスの乗り継ぎを考えていく。これは、23年度の目標でもありましたが、震災対応のため十分に事業を展開されていないため24年度も引き続き力を入れていく。
	H24事前評価	高齢者の方に多く利用されていますが、高齢者のみならずより多くの方に利用してもらえるように今後もPRをしていきます。また、輸送先の店舗・医療施設等と行政が連携し持続可能なシステムとしていくことが必要であると考えます。例えば、乗車場所の表示やベンチ等の設置のほかデマンド交通システムを継続していくうえで輸送先にできることも検討していきます。高齢者の運転免許返納の事業を進めることで、高齢者の交通事故の減少を図る。
総合評価(町長)	総合評価	施策傘下事務事業に係る個別指摘事項
	「ソフト的な手法でデマンドに付加価値を付けていく」という方向性を評価するが、具体的な取組については関係者との調整の中で今後立案していくとのことなので、期待される成果は評価を保留する。運行先との協議を密にし、運行先との良好な協力関係によって、デマンドシステムの維持がなされていくことを期待する。	・「継続事業」とするが、明確な積算根拠を予算査定時に提示されたい。また、他の福祉施策との見合い(スクラップアンドビルド)についても議論されたい。 ・また、利用料金(100円)については、状況変化に応じて不断に検証されたい。